

# おける、 はみだす、 ずれる。

伊藤千史展  
Ito Chifumi



2026年1月31日(土) – 3月29日(日)

開館時間 | 10:00 – 17:00 \*入館は16:30まで

休館日 | 2月2日、9日、12日、16日、24日、3月2日、9日、16日、23日

\*月曜日(祝日の場合は火曜日)、国民の祝日の翌日(土日祝日はのぞく)、年末年始(12月29日 – 1月3日)、展示替えの期間

入館料 | 大人 200円 小中学生 100円 \*市内の小中学生無料

\*20名以上の団体は2割引 \*障害者手帳をお持ちの方は、ご本人と同伴者1名が無料

主催 | 沼津市庄司美術館(モンミュゼ沼津)

沼津市庄司美術館  
NUMAZU SYOJI MUSEUM OF ART

monmusee

2026年 1月31日(土) – 3月29日(日)

伊藤千史は、人物や動物、日常の風景を軽やかな筆致で描きながら、世界の輪郭がわずかに揺らぐ瞬間を捉えてきた作家です。本展では、ふんどし姿の男性像をユーモラスかつ力強く描いた「羅漢シリーズ」、第25回岡本太郎現代芸術賞特別賞を受賞した『書店レジ前の平台』、作品集「ねこおち」の原画、歴史的モチーフを扱った、鈴木英治著『義元、遼たり』の装画原画を中心に、さまざまな作品を紹介します。

線の揺らぎや余白の在り方、日常に潜む違和感といった表現を通して、伊藤作品に共通する“意味のほぐれ”を多角的に体感いただける展示となっています。日常の見え方がそっと変わるような、静かで新鮮なまなざしの転換をお楽しみください。

伊藤千史 (Ito Chifumi)

静岡県富士宮市出身・在住の美術家。女子美術短期大学造形科グラフィックデザイン教室を卒業後、墨汁を用いた絵画作品を中心に制作を続けている。墨ならではのにじみや線の勢いを生かしながら、人物や動物、日常の断片をユーモラスな感覚で描き出す。

2022年には第25回岡本太郎現代芸術賞展において特別賞を受賞し、注目を集め。同年、作品集『ねこおち』(子鹿社)を刊行。絵画制作にとどまらず、地域のカフェや公共空間での制作、イベントへの参加など、生活と地続きの表現活動も継続して行っている。

### 主な展覧会 (Selected Exhibitions)

- |       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 2024年 | 「五百裸漢 現る！」 Art@東静岡（ヒロバ）（静岡）      |
| 2023年 | 「漁師のおっさん」 ART SPACE Botanica（静岡） |
| 2022年 | 「第25回 岡本太郎現代芸術賞展」川崎市岡本太郎美術館（神奈川） |
| 2018年 | 「五百裸漢！」 富士芸術村（静岡）                |
| 他多数   |                                  |

### 【受賞歴 (Award)】

- 2022年 第25回岡本太郎現代芸術賞 特別賞 (川崎市岡本太郎美術館)  
2021年 市場町アートフェス グランプリ (DHARMA NUMAZU)  
2018年 第9回1000の小箱展 入選 (感覚ミュージアム)  
2018年 第10回記念展 紙のアートフェスティバル 入選 (富士芸術村)



[Credit]

『書店レジ前の平台』 画像提供：川崎市岡本太郎美術館  
その他の展示風景撮影：錢谷均／都築透

美術館を観覧する場合、特に申し込みや予約等の必要はありません。展覧会の情報やイベント、その他について詳しくは沼津市庄司美術館（モンミュゼ沼津）公式WEBサイトをご覧になるか、お電話にてお問合せください。

## アクセス

電車の場合 | 「JR沼津駅」下車。駅南口からバスもしくはタクシーでお越しください。

バスの場合 | 沼津駅南口「ローソン」前9番のりばから乗車、「市道(いちみち)」で下車。手前の川沿いを歩くと、「ふれあい沼津ホスピタル」が見ええてきます。その向かい側、橋を渡ってすぐの3階建ての建物です。

お車の場合 | 東名沼津ICより約20分です。駐車場 8台駐車可能。

\*バス1台駐車可能(事前にご連絡ください)

\*車椅子・エレベーター有り

# 沼津市庄司美術館 NUMAZU SYOJI MUSEUM OF ART

TEL 055-952-8711  
<https://www.monmusee.jp>



沼津市立博物館  
(モンミュゼ沼津)

(モンミュゼ沼津)

1000 JOURNAL OF CLIMATE

